

年間指導計画表

教科・科目	理科・生物	単位数	5単位
		学科・学年・学級	3年理系生物選択

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生物や生物現象についての観察や実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育成する。
使用教科書・副教材等	教科書: 高等学校 生物(第一学習社) 資料集: スクエア最新図説生物neo(第一学習社) 問題集: セミナー生物(第一学習社) 生物重要問題集—生物基礎・生物(数研出版)

2 評価の観点等

観点	趣旨
a. 関心・意欲・態度	各テーマについて興味・関心を持って取り組んでいるか。授業・実験・観察に意欲的に取り組み、より深く理解しようと努めているか。これらをノート、プリント、小テスト、考査および授業態度から評価する。
b. 思考・判断・表現	生命現象について疑問を持ち、問題点を客観的に把握できるか。またその問題点の解決方法が着想できるか。これらをノート、プリント、小テスト、考査から評価する。
c. 技能	実験・観察の技能を習得しているか。その結果をグラフやスケッチなどにしてわかりやすく表現できるか。これらをノート、プリント、レポート、考査を通して評価する。
d. 知識・理解	生命現象について基本的な概念や原理・法則を理解し、それを知識として身につけているか。これらを考査、プリント、ノートを通して評価する。

3 学習計画

学期	月	時数	学習内容	学習のねらい	評価の観点			
					a	b	c	d
前期前半 (第1回)	4	50	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 調節遺伝子が他の調節遺伝子の発現を調節することによって連鎖的にさまざまな遺伝子が発現し、細胞が分化することを学習する。 遺伝子工学について学習する。 減数分裂の過程について学習する。 遺伝子の連鎖について学習する。 精子と卵の構造を学習する。 卵割時の細胞周期の特徴を学習する。 器官は誘導が連鎖的に生じることによって形成されることを学習する。 				○
	5		2. 遺伝子の発現調節		○	○	○	
	6	3. バイオテクノロジー					○	
		1. 減数分裂と受精					○	
		2. 遺伝子と染色体				○	○	
		1. 配偶子形成と受精					○	
		2. 初期発生の過程				○	○	
		3. 細胞の分化と形態形成					○	
		第1回考査						
【第1回の評価方法】 第1回考査、小テスト、提出物(実験レポートを含む)、授業態度を総合的に評価する。								

前期後半 (第2回)	40	4. 器官の形成と細胞の死 1. 配偶子形成と胚発生 1. 植物の環境応答と植物ホルモン 2. 植物の環境応答とそのしくみ 1. 刺激の受容と反応 2. 動物の行動 第2回考査	<ul style="list-style-type: none"> 再生における位置情報の再編成について学習する。 植物の発生の特徴について学習する。 植物の成長とホルモンについて学習する。 植物の光受容体の種類とその特徴について学習する。 動物の受容器とその適刺激の関係について学習する。 行動を引き起こす刺激について学習する。 	○	○	○	○	○
【第2回の評価方法】 第2回考査, 小テスト, 提出物(実験レポートを含む), 授業態度を総合的に評価する。								
後期前半 (第3回)	35	1. 個体群 2. 生物群集 1. 生態系の物質生産 2. 生態系と生物多様性 1. 進化のしくみ 2. 生物の起源と生物の変遷 1. 生物の分類の変遷と系統 2. 生物の系統関係 第3回考査	<ul style="list-style-type: none"> 個体群の成長のようすを学習する。 中規模の攪乱が起こることによって多様な種が共存していることを学習する。 生態系における生産者と消費者の物質生産と消費について学習する。 生物多様性には、生態系・種・遺伝子の3つのとらえ方があることを学習する。 自然選択の考え方および、自然選択の結果として適応進化が起こることを学習する。 原始地球の環境と化学進化について学習する。 生物の系統と系統樹について学習する。 真核生物ドメインに含まれる、原生生物界、植物界、菌界、動物界の特徴や系統関係を学習する。 	○	○	○	○	○
【第3回の評価方法】 第3回考査, 小テスト, 提出物(実験レポートを含む), 授業態度を総合的に評価する。								
後期後半 (第4回)	1 2 3	50	総復習		○			○
【第4回の評価方法】 これまでの評価を加味し、総合的に評価する。								
【年間の学習状況の評価方法】 前期前半から後期後半までの評価を総合し、年間の評価とする。								